



誰もが避けて通れない老いから死への道。

その過程をどう過ごすのか、誰にもそれぞれに願いや希望がありますよね。

そんな願いも、希望も、自分だけでは思いどおりに進まないのが人生ともいえましょう。

シニア世代といわれる私たちは、その一歩手前にいるのかもしれませんが。だから考えましょう。

今、行政や地域は、老いを迎えた人々をどう支えてゆこうとしているのか …

そして、まだ老いの一歩手前にいるシニア世代はどんな支え合いに参加できるのか …

期日：平成 29 年 8 月 2 日（水）午後 1 時～3 時

場所：茅野市民館マルチホール（茅野市塚原 1-1-1 電話 0266-82-8222）

参加費：無料

パネリスト：森田勝己氏（諏訪広域介護保険運営委員）

「超高齢化社会になぜ地域包括ケアシステムが必要なのか。背景と全体像を考える」

後町みどり氏（富士見町地域包括支援センター・社会福祉士）

「富士見町が主体となって行政的立場から介護・医療サービスの連携を図る」

湯田坂九海氏（茅野市社会福祉協議会地域福祉活動推進係）

「茅野市全域の個々のニーズに適応する幅広い分野の支援体制をコーディネート」

熊崎秀和氏（中大塩地区社会福祉協議会会長）

「茅野市中大塩地区における区民全体での支え合いの組織を構築する」

遊佐陽子氏（有償ボランティア「原村ねこの手サービス」運営委員会副委員長）

「例えば雪かきや草刈りなどの細かな個々のニーズに対応するサービスで地域貢献」

ファシリテーター：内山二郎氏（長野県長寿社会開発センター理事長）



内山二郎氏プロフィール

昭和 18 年、神奈川県生まれ。学生時代にベトナム戦争下の現地に赴く。マグロ船乗り、沖仲仕、鳶職、映画助監督、TVディレクターなどを経てフリージャーナリストに。地域福祉、高齢者問題、障害者福祉、国際理解、人権・男女共同参画、協働推進、地域づくりなどに関する執筆・講演などを務める。

主催：公益財団法人長野県長寿社会開発センター諏訪支部

（問合せ：公益財団法人長野県長寿社会開発センター諏訪支部 電話 0266-57-2910）